

日本・トルコ交流100年と今後期待される協力分野

新井 春美

本年（2024年）は日本とトルコが外交関係を樹立して100周年にあたる。これまで両国間には目立った摩擦もなく、世界でも類を見ない友好関係を築いてきたといっ

てよい。映画にもなったエルトゥール号事件と、その「恩返し」としての在テヘラン邦人救出¹などは両国の友情の証として日本でも有名になったが、両国交流はエルトゥール号の慰霊事業をはじめ、市民レベルでの交流がもっとも充実している印象である。何より、エルトゥール号のエピソードを、今日まで教科書に掲載し続けているトルコ側の厚意に負っているところが多い。

両国の交流の事例をあげればきりが無いが、現在の両国の友好関係は、「皇室、政府、市民が堅実に積み重ねてきた実績の結果」²とされる。1926年に設立された日本・トルコ協会は、三笠宮殿下（平成28年10月27日薨去）が名誉総裁、彬子女王殿下が総裁に就いておられる。トルコ中央部にあるカマン・カレホユックの遺跡発掘では、大村弘幸氏が所長を務めるアナトリア考古学研究所が多大な業績を上げ、両国の文化・学術交流に貢献している。かつては支援対象国であったトルコは著しい経済発展を遂げ、2013年には日本トルコ共同企業体によるマルマライ開通事業³を始めとするインフラ開発、さらには三角協力などいまやパートナー関係にある⁴。近年は、災害・救援活動での協力も進んでいる。2011年のトルコ南東部地震では支援活動に派遣された宮崎淳氏が犠牲になったが、トルコでは宮崎氏の名を冠した公園を造成している。また、東日本大震災の際、トルコの救援隊が長期にわたり被災地で活動していたことを記憶している方も多いと思う。

今後、両国のますますの協力が期待される分野としては、防災・外交分野があげられよう。上述したように災害・救援以外にも協力できる場は多い。日本の大手ゼネコンの現地事務所長を務める森脇義則氏は、地震が多いトルコにおいて活発な啓もう活動を展開している⁵。森脇氏はテレビに出演し、地震についての解説を行うほか、地震が発生したときの対応、避難の方法などを学校でレクチャーをしたり、トルコ人のイラストレーターと共同で漫画にまとめて発行・配布している。トルコは日本ほど防災意識が高くないため、こうした活動は重要である。個人に任せるのではなく、日本政府の全面的な協力支援があればさらに広めることが可能である⁶。

加えて、トルコの得意分野であるドローンの活用と日本が蓄積してきた自然災害についての知識や経験をミックスすることにより、災害の予防、被害の最小化、復興活動の

迅速化に貢献できる。トルコのドローン製造は世界トップレベルであり、その活用に関しても「無人機ロードマップ」を制定し、民事の利用方法として洪水、地震、火山といった自然災害の監視なども想定している⁷。これに日本の蓄積をプラスすれば、かなりの効果が期待できよう。

外交では、国連・安保理改革のための協力である。トルコのエルドアン大統領は「世界は5か国より大きい」と述べ、安保理が常任理事国5か国の意向に左右されているという現状に疑問を呈してきた。安保理の改革は日本の外交的野望の一つでもある。すでに日トで外相レベルでの話し合いを重ねていると報道されているが⁸、日本が常任理事国入りする、しないはさておき、安保理の改革を早急に実現させ、「機能不全」とも揶揄される安保理および国連の活性化を促進することが期待される。

トルコは親日国である、という表現は日本国内でもしばしば耳にすることがあるだろう。しかし、日本は親トルコだという表現は聞かない。トルコ政府の奨学金のおかげでトルコへの留学が叶った筆者としても、日本・トルコの関係がますます発展することを強く願っている。

(2024.9.10 加筆修正)

¹ 1890年にオスマン帝国（当時）の軍艦エルトゥールル号が和歌山県沖で台風により座礁し、近くの大島村の人々が救出に奔走し生存者にも手厚い看護を施した。この後、山田寅次郎が日本全国から義援金を集めオスマン帝国に持参し、長らくトルコと日本を結ぶ民間大使の役割も果たした。イラン・イラク戦争中の1985年、イラクがイランの首都テヘラン上空の航空機を無差別に攻撃すると宣言、テヘランに在住していた外国人は本国に帰国したが、日本航空はテヘランに向かうことを拒否、邦人が取り残された。攻撃開始時間が迫る中、トルコ航空機で帰国するはずだったトルコ人は日本人に席を譲り、日本人は全員、無事に脱出できた。この時に日本人を救出した理由を尋ねられたオザル大統領（当時）は、エルトゥールル号のお礼だと述べた。

² 大曲裕子「日本・トルコ関係－皇室・政府・市民の「三層外交」」、間寧編著『トルコ』第1章（ミネルヴァ書房、2019年）。

日本・トルコ協会については同会のウェブサイトを参考 <http://www.tkjts.jp/>

³ マルマライはイスタンブールのボスポラス海峡をまたぐ地下トンネル。

https://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/201412/201412_03_jp.html

⁴ JICA（国際協力機構）とTIKA（トルコ国際協力調整庁）が連携し中東アフリカ地域への支援活動を実施している。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072325.pdf>

⁵ 森脇氏のインタビューは

https://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/consulate_j/bunka/hpmoriwaki.pdf など。

現地では、Japon deprem uzmanı Yoshinori Moriwaki TOKİ binalarını örnek gösterdi, Anadolu Ajansı , 2023. 3.18. <https://www.aa.com.tr/tr/asrin-felaketi/japon-deprem-uzmani-yoshinori-moriwaki-toki-binalarini-ornek-gosterdi/2849149> などで紹介されている。

JICA の対トルコ支援事業の 1 つとして「防災・災害対策能力の向上プログラム」は計画されている。<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072325.pdf>

⁶ 2023 年 2 月 6 日、トルコ南東部のシリアとの国境付近で発生したマグニチュード 7.8 の地震およびマグニチュード 7 クラスの余震により、数十万の建物が損壊、トルコ、シリア両国合わせて約 5 万 9 千人が犠牲となった。日本政府はただちにトルコに国際緊急援助隊を派遣し、警察官や消防隊員らからなる救助チームと医師や看護師などの医療チームが行方不明者の捜索や救護などを行った。トルコ宛て 850 万ドルの緊急無償資金協力も実施した。日本赤十字は、トルコ、シリア両国分を合わせて約 58 億円の救援金を受けつけ、支援・復旧活動に役立てている。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/turkey/page24_002294.html

https://www.jrc.or.jp/international/results/turkey_syria_jrcs.html

⁷ Savunma Sanayii Müsteşarlığı, *Türkiye İnsansız Hava Araçları Yol Haritası (2011-2030)*

無人機を専門に扱うトルコの救助隊は、2024 年 4 月 3 日に発生した台湾東部沖地震での活動実績がある。7 人からなるこの救助隊は、地震発生後 4 日後には海外の救助隊として初めて被災地に入り、台湾側と捜索の方針について打ち合わせをしたあと現場に向かったと報じられた。<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240407/k10014414751000.html>

⁸ 「日・トルコ外相会談、国連改革へ協力 対ロシアで結束」日本経済新聞（電子版）
2022 年 3 月 19 日

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA192PF0Z10C22A3000000/>